

岡山発祥の木下サーカスが今月、新型コロナウイルスウィルス感染症の影響による4カ月余りの公演中止を乗り越え、東京都立川市でステージを再開した。コロナ禍で世界的に人気のカナダのサーカス劇団「シルク・ドゥ・ソレイユ」が経営

破綻するなど業界を取り巻く環境は厳しいが、木下唯志社長は「サーカスの存続はわれわれに課された使命」と力を込める。創業118年のプロ集団を率いる4代目トップに思いを聞いた。(内田光祐)

舞台存続は使命

1日に公演を再開し

た。

「久しぶりのお客さんの拍手や笑顔が大きな励みになっている。6月から予定していた新潟公演が中止となり、わずか3日間で打ち切りとなった3月下旬の金沢公演以来の舞台だ。第2次大戦中も女性だけで公演を継続した木下サーカスが、これだけ長い間休んだのは初めて。休演中、団員たちは自主練習に励み、毎週日曜日には本番と同じ流れで行うリハーサルを続けていたが、一時はモチベーションが上がらず、パフォーマンスの質が下がっていた。世界一のサーカス団を、目指し、さらにもう一段、技を磨いていく」

コロナ休演乗り越え東京で再開

木下サーカス 木下唯志社長に聞く



総出で全座席を消毒している。お客さんにはマスク着用と、入場時の検温や連絡先の記入に協力をお願いしている。今は感染防止が第一。お客さんはもちろん、テント裏のコンテナで共同生活を送る団員たちの健康

「密を避けるため、公演会場となる約2千人収容のテントの座席数は900人に制限した。テント内の業務用換気扇を1・7倍の34台に増設し、観客を入れ替えるごとに団員やスタッフ

「挑戦する勇気」届ける 徹底対策 感染 底層 C F で資金募集

という経営面での判断だろう。われわれも長期にわたって公演できずに厳しい状況だったが、サーカスへの情熱や団員の生活を守りたいとの思いは強く、存続は使命だと感じている。正社員である日本人アーティストへの給与は雇用調整助成金を活用し、ステージごとのギャラ契約の外国人アーティストには100万円の持続化給付金の申請を案内した。年数回の公演地移動の際に役立つように、フォークリフトや油圧ショベルの運転免許を取得した団員もいる」

「クラウドファンディングサービス「晴れ！フレ！」岡山」を利用し、運営資金を募っている。

「7月15日に1千万円を目標に開始したところ、4日目に達成できた。予想以上の大きな支援に大変感謝している。サーカスの魅力は『挑戦する勇気』にある。コロナ禍で大変な思いをしている人たちが多く、舞台を通じて明日に向かうエネルギーを届きたい」

「立川公演は12月14日まで、その後は首都圏や中国地方で公演を計画 중이다。『コロナの感染状況は見通せず、公演はまた休止せざるを得ないかもしれない。ただ、人類はこの苦難を必ず乗り越える。その日を見据え、毎日を大切に生きる』一日一生の気持ちで臨んでいる。サーカスの魅力は『挑戦する勇気』にある。コロナ禍で大変な思いをしている人たちが多く、舞台を通じて明日に向かうエネルギーを届きたい」



観客の入れ替え時に座席を消毒する外国人アーティスト

【ス】

木下サーカス 1877年に現在の岡山市中区西中島町に創設された芝居小屋「旭座」を前身に、1902年、木下唯志社長の祖父・唯助氏が中国・大連で旗揚げした。猛獣ショーや古典芸、オートバイショー、マジックなど多彩な演目を繰り広げ、年間観客動員数は世界最大級の約120万人。唯志氏は空中ブランコ乗りとして活躍した後、90年に社長に就任した。本社は岡山市北区表町。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。